

北栄町議会議長 前田 栄治 様

北栄町議会議員 井川 敦雄

議員派遣結果報告書

1	名 称	令和7年度鳥取県町村議会議員研修会
2	場 所	アロハホール（湯梨浜町）
3	期 間	令和7年11月28日（金） 1日間
4	内容・成果	<p>演題 「地方議員のなり手不足の背景を考える 議員報酬・議員定数も意識して」 講師 拓殖大学政経学部社会安全学科教授 河村 和徳 氏</p> <p>1. 改革が求められている地方議会の現状 全国各地で、議会の不適切な言動や不祥事がメディアを騒がせ、議会全体への不信感が高まっている。これに加えて、無投票当選の増加や定数割れなど、地方議員のなり手不足が深刻化しており、地方議会は「信頼の低下」と「担い手不足」の課題を抱えている。</p> <p>2. 「内なる改革」と「外からの改革」 地方議会の改革を進める上で、 議会自らが取り組む「内なる改革」 法制度や社会環境の変化による「外からの改革」 の両面が必要である。</p> <p>3. 議員定数と報酬の連動 議員定数削減が進む一方で、議員一人当たりの業務量や責任は増大しており、それにも関わらず報酬水準が十分に議論されていない。 単純な定数削減は、 議会機能の低下 多様な民意の反映不足 なり手不足の加速 を招く可能性がある。</p> <p>4. 求められている議会とは何か 議論の過程と結論を住民に示す議会 行政をチェックするだけでなく、政策を提案する議会 住民との距離が近く、説明責任を果たす議会</p> <p>5. 「見える化」は信頼醸成の一丁目一番地</p>

	<p>「議会の見える化」は改革の出発点 単なる情報公開にとどまらず、 なぜその結論に至ったのか 議員がどのような役割を果たしているのか を住民にわかりやすく伝えることで、議会への理解と信頼につながる。</p> <p>6. 報酬をどう考えるか 議員に求められる役割 責任と業務量 持続的に担い手を確保できる水準 の観点から冷静に議論される必要がある。</p> <p>7. 定数をどう考えるか 議会機能を維持できるか 住民の声を十分に反映できているか の観点から検討すべき。</p> <p>所感 議員定数や報酬といったテーマは避けて通れない課題であり、議会自らが説明責任を果たしながら住民とともに議論していく姿勢が求められる。</p> <p>演題 「住民が求める地方議会・期待される地方議会とは何か。」 講師 一般社団法人地方公共団体政策支援機構理事 渡辺 太樹 氏</p> <p>1. 地方議会に求められている役割について、「勘や経験に頼るのではなく、客観的なデータに基づく政策形成（EBPM）」の視点から講義が行われ、人口減少や少子化が進行する中、議会が現状を正しく把握し、課題を整理したうえで政策議論を行うことが重要である。</p> <p>2. データに基づく現状把握の重要性 合計特殊出生率や人口動態、年代別の転出入状況などのデータを活用することで、 現状を客観的に把握できる 課題が具体的になる 政策議論の出発点が明確になる 「数値が高い・低い」という単純な評価ではなく、その背景にある地域の暮らしやすさや生活環境を読み取る視点が重要である</p>
--	--

	<p>3. 少子化・人口移動に関する視点</p> <p>少子化対策については、出生数や合計特殊出生率のみを見るのではなく、地域ごとの特性や生活環境を踏まえた分析が必要である。</p> <p>また、20代・30代を中心とした転出入の状況や転出先・転入元を把握することで、若い世代の行動や意識を理解する手掛けかりになる。</p> <p>4. 議会に求められる役割</p> <p>地方議会の役割として、行政のチェックにとどまらず、データを基に課題を整理し、政策議論の方向性を示すことが重要である。</p> <p>「問題」と「課題」を区別し、感覚的な議論ではなく、根拠に基づいた議論を行う姿勢が住民から期待される議会像である。</p> <p>所感</p> <p>地方議会には、現状を正確に把握し、課題を整理したうえで政策議論を深めていく役割が求められている。</p> <p>EBPMは結論を示すものではなく、議論を始めるための基盤であり、共通認識を形成するための手段である。</p> <p>今後は、北栄町の人口動態や転出入状況などのデータを踏まえて、若い世代が住み続けたいと感じられるまちづくりについて、考えていく必要があると感じた。</p>
--	---

提出期限 令和7年12月19日（金）まで